

「ドラマ化・映画化された本の魅力」

英語科 脇坂 祐輔

前期生の頃、私は朝読書の時間でしか読書をしていなかったと思う。「本を読みたい」という気持ちは少しはあったが、宿題と部活動に追われる日々で、読書をする時間はほとんど取れなかった。正確には、取らなかったという言うべきか。

後期生になり、私の国語の成績はあまり良くなかった。特に現代文の成績が全く伸びない。何より、文章を読むスピードが遅く、読んでも話の内容や筆者が伝えたいことがよく分からなかったのだ。今思うと、それは読書の習慣がなかったからなのかと後悔している。

私が本を読むようになったのは、大学生の時からである。大学内にある大きな図書館へ毎日通った。最初は、授業で出た課題をするために訪れていたが、しだいに本を読むようになった。また、書店へ行ったり、喫茶店で本を読んだりするようにもなった。読書をすると、いろいろな知識が得られ、何だか自分がどんどん賢くなっているのではと日々感じていた。

「本を読もうとするが、集中力が続かない。すぐ眠たくなってしまう。」という人はいないだろうか。私は今もそうである。だから、私は話の内容をすでに知っている本をよく読む。世間には、ドラマ化・映画化された本がたくさんある。それらの作品をまずは映像（ドラマ・映画）で楽しんで、その後本を読んで更に楽しむようにしている（その逆が一般的なのかもしれないが）。内容がある程度分かっているため、スラスラと読み進めることができる。また、映像では描かれていなかった場面や、ドラマや映画と少し異なるストーリーの展開など、新たな発見に出会えるのも魅力の一つではないだろうか。

私は、重松清さんの本が好きである。図書室のカウンター付近に置いてあるため、ぜひ手に取って読んでほしい。私が特に好きなのは、「ステップ」という本である。これは、2020年に山田孝之さん主演で映画化された物語である。この物語以外にも、重松さんの作品の多くは、ドラマ化・映画化されている。どれも素晴らしい物語ばかりなので、ぜひ読んでもらいたい。

今年度から宇和島南中等教育学校へ赴任し、教員になって初めて図書委員会担当になった。委員会で図書室に行くたびに、本の種類の豊富さに驚いている。中等生の皆さんには、ぜひ図書室を活用して、大人になるまでに本と触れ合う時間を少しでも作ってほしいと思う。大袈裟かもしれないが、自分が手に取った本で、自分の将来やりたいことが見つかるかもしれない。そんな予測できないような出会いや発見が、本にはあるのではと私は思う。

この一行に逢いにきた

上記は、今年の読書標語です。作者の言葉を紹介します。

「本の中にグッとくる一行があって、何度も何度も目でなぞり、ついには暗記してしまう。作者はこの一行のためにこの本を書いている、読者はこの一行に出会うため読んでいるのだと思うとき、幸福になる自分があります。」なるほど・・・あなたもお気に入りの一行を見つけてみませんか？

☆宇和島南中等教育学校の読書標語を募集します☆

- 一人一句標語をつくってください。
(詳しくは図書委員がクラスにて連絡します。)
- 文字数は自由です。(五・七・五やキャッチコピー風など形式も自由です。)
- 提出締め切りは、10月21日(月)です。
- 最優秀1点と優秀2点を図書委員会で選定し、入選作は、図書館に掲示するとともに入賞者には、ミニ賞状をお渡しします。

～新刊紹介～

- 『5分後に世界のリアル 仰天！世界のアタリマエ』 藤田晋一【著】
- 『5分後に世界のリアル衝撃！世界の食文化』 藤田晋一【著】
- 『母親からの小包はなぜこんなにダサイのか』 原田ひ香【著】
- 『短物語』 西尾維新【著】
- 『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。』 汐見夏衛【著】
- 『人生の目的 旅人は無人の荒野で猛虎に出会う』 高森顕徹【著】
- 「お帰り ～虹の橋からきた犬」 新堂冬樹【著】
- 『天久鷹央の事件カルテ 猛毒のプリズン』 知念実希人【著】
- 『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら Another』 汐見夏衛【著】

ただいま、今年度2回目(そして最後)の購入本、募集中です。希望がある人は、各クラスの図書委員か図書館の赤松まで、連絡してください。
締め切りは、10月18日(金)です。

今年も読書会(ビブリオバトル)を行います。堅苦しい会ではなく、誰でも気軽に参加できる和気あいあいとした会です。試験も終わっている頃だし、友達誘って、ちょっと参加してみませんか。

日時 10月16日(水) 16:00～17:00 場所 図書館

(詳しくは教室に掲示している『読書会のお知らせ』の文書を見てください。)